

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

## 令和5年第28週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (28週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。3類感染症：報告なし。4類感染症：報告なし。  
5類感染症：ウイルス性肝炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、梅毒1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	90歳代	女	肺結核	なし
		延岡	20歳代	女	結核性リンパ節炎	左頸部リンパ節腫脹
5類	ウイルス性肝炎	延岡	10歳代	男	B型	全身倦怠感、嘔吐、褐色尿、発熱、肝機能異常、黄疸
	クロイツフェルト・ヤコブ病	宮崎市	80歳代	女	古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD) 診断の確実度：疑い	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症状、錐体外路症状、記憶障害、筋強剛
	梅毒	延岡	20歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	硬性下疳

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は2,361人(定点当たり47.9)で、前週比108%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は新型コロナウイルス感染症で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎及びヘルパンギーナであった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【新型コロナウイルス感染症】

報告数は1,206人(20.8)で、前週比130%と増加した。高千穂(37.5)、日南(27.6)、延岡(25.9)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

##### 【インフルエンザ】

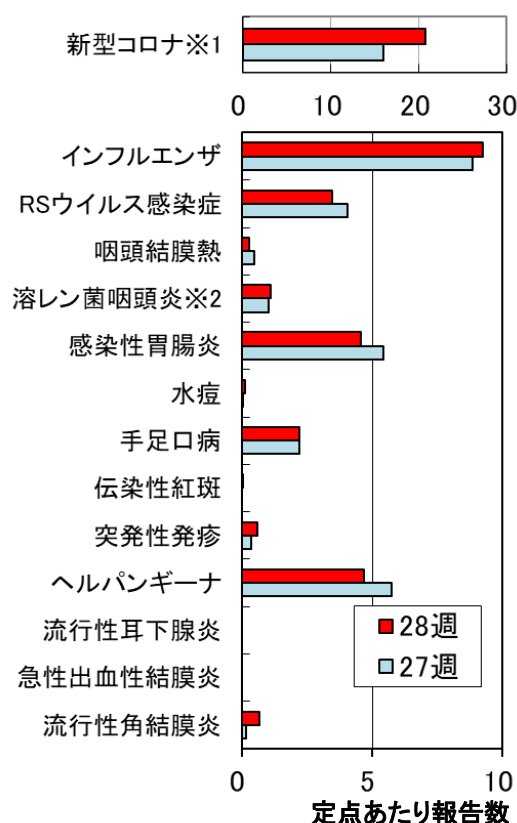
報告数は536人(9.2)で、前週比105%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.05)の約184.8倍であった。日南(23.4)、宮崎市(15.1)、中央(15.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

##### 【ヘルパンギーナ】

報告数は168人(4.7)で、前週比81%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.67)の約7.0倍であった。小林(14.7)、延岡(7.3)、日向(6.8)保健所からの報告が多く、年齢群別は1歳から5歳が全体の約8割を占めた。

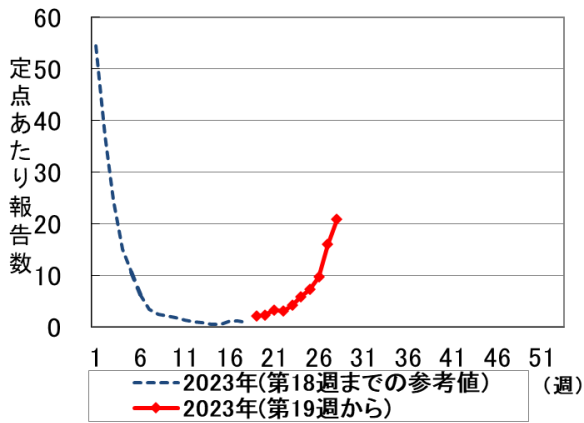
\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

《前週との比較》

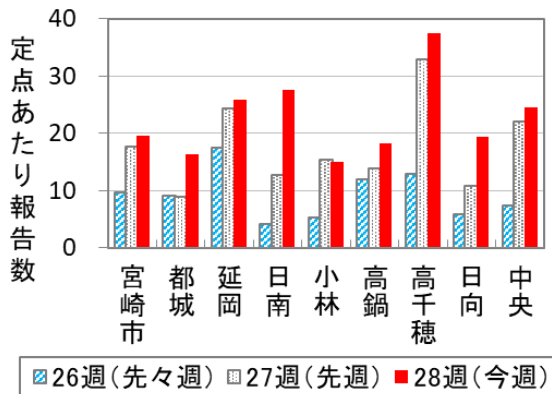


※1 新型コロナウイルス感染症  
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

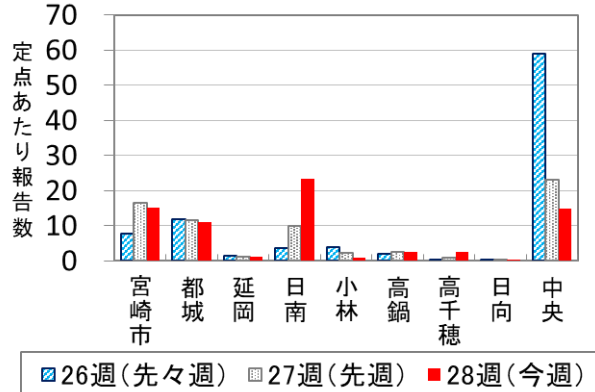
### 新型コロナウイルス感染症 発生状況



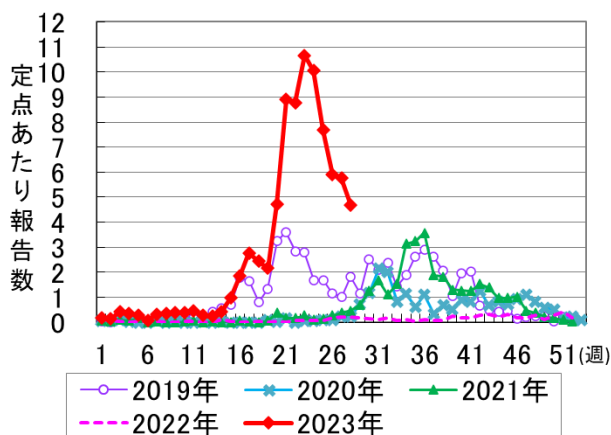
### 新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)



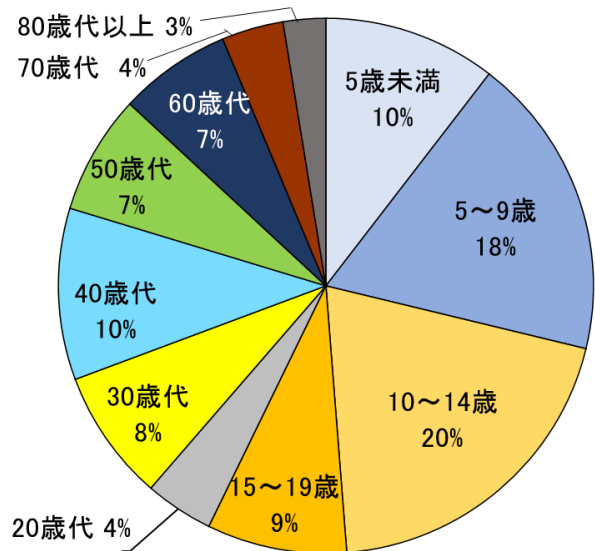
### インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



### ヘルパンギーナ 発生状況

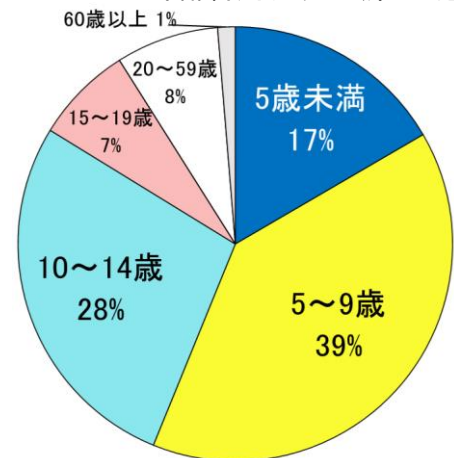


### 新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第28週)

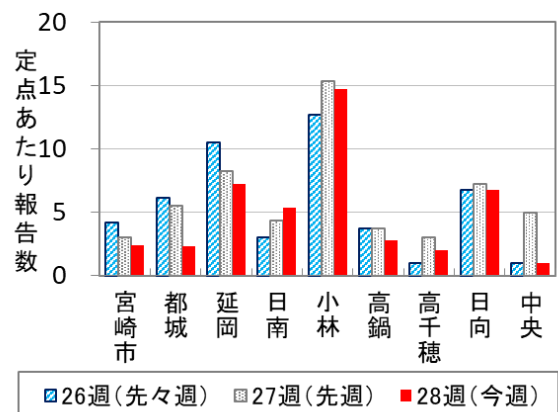


※新型コロナウイルス感染症の第1週~第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

### インフルエンザ年齢群別グラフ(第28週)



### ヘルパンギーナ 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★

○無菌性髄膜炎：日向保健所より1例報告があり、年齢は10歳代であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	インフルエンザ(15.1)
都城	インフルエンザ(11.0)
延岡	手足口病(7.3)、ヘルパンギーナ(7.3)
日南	インフルエンザ(23.4)
小林	ヘルパンギーナ(14.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	手足口病(7.8)、ヘルパンギーナ(6.8)
中央	インフルエンザ(15.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・手足口病(5)
- ・ヘルパンギーナ(6)

＊流行注意報レベル基準値＊

- ・インフルエンザ(10)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年7月17日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	5～9歳	女	2023.06.14	発熱(40.0℃)、胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐)	便	2023.06.21
EPEC(OUT:H51)	0～4歳	女	2023.06.15	発熱(38.0℃)、胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.06.28
EPEC(OUT:HNM)	60歳代	男	2023.06.22	胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.06.29
EPEC(OUT:HUT)	20歳代	女	2023.06.21	発熱(37.8℃)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.07.04
EHEC(O26:H11)	5～9歳	男	2023.06.19	胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.07.04
EHEC(O26:H11)	10歳代	男	2023.06.25	胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.07.05

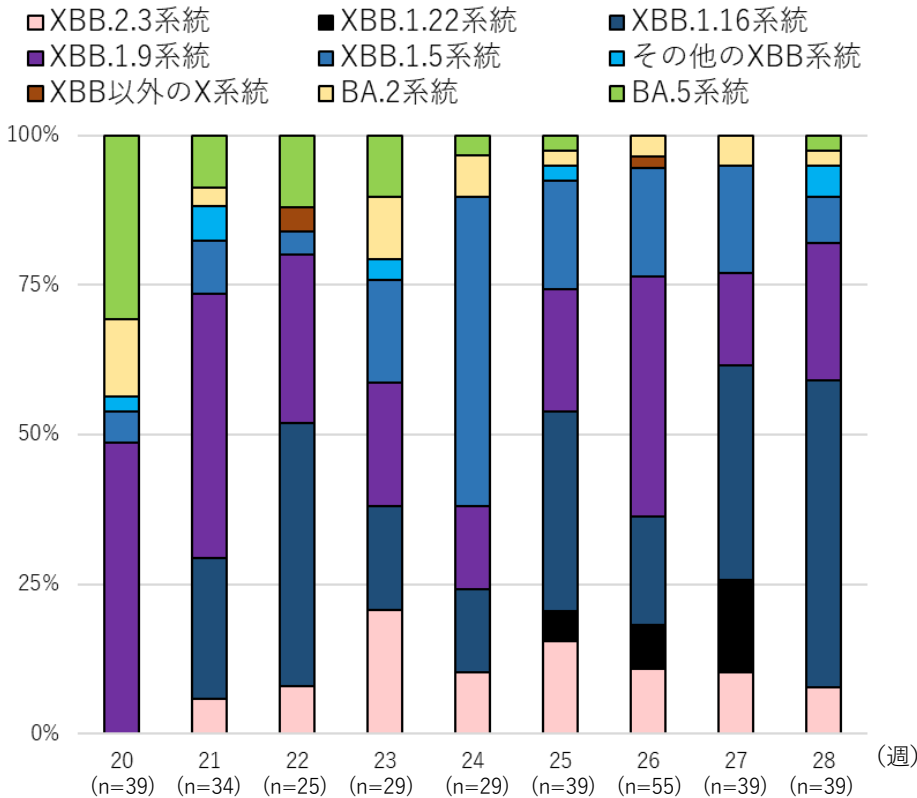
○5～9歳男児及び10歳代の男性から腸管出血性大腸菌（EHEC O26:H11 VT1）が検出された。腸管出血性大腸菌による感染症は、一般に初夏から晩秋にかけて多発することから、今後の発生動向に注意する必要がある。なお、宮崎県では毎年、保育園等でEHECの集団感染が発生しており、食べ物を介した感染だけではなく、簡易用ミニプール水等を介した感染等にも注意する必要がある。保育施設においては、厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」2018年3月改訂（2021年8月一部改訂）を参照されたい。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Parainfluenza virus 3	5～9歳	男	2023.05.08	咽頭炎、38.0℃、発疹(丘疹)	鼻汁	2023.07.10
RS virus	0～4歳	女	2023.05.15	急性気管支炎、40.0℃	鼻汁	2023.07.12
Influenza virus AH3	5～9歳	女	2023.06.06	A型インフルエンザ、40℃	咽頭ぬぐい液	2023.07.10

## □新型コロナウイルスゲノム解析結果情報（衛生環境研究所微生物部）

### 新型コロナウイルスゲノム解析週と検出系統



XBB 系統は第 28 週で約 95%を占め、特に XBB. 1. 16 系統が約 51%を占めた。

「X」で始まる名前は遺伝子組換えで発生した系統に付けられる。

XBB は BJ. 1 (BA. 2. 10. 1 系統) / BM. 1. 1. 1 (BA. 2. 75. 3 系統) の組換え株である。

ゲノム解析は概ね前週の検体を用いて実施している。なお、解析検体数が多くない場合は割合の変動が大きくなる。

衛生環境研究所においては、県内医療機関の協力のもと、新型コロナウイルスの PCR 陽性となった検体を毎週収集し、ゲノム解析を実施している。

## 🇯🇵 全国 2023 年第 27 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	212 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	132 例	腸チフス	1 例
	E型肝炎	12 例	エムボックス	1 例	オウム病	1 例
4類感染症	デング熱	4 例	日本紅斑熱	12 例	レジオネラ症	49 例
	レプトスピラ症	2 例				
	アメーバ赤痢	4 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	21 例
5類感染症	急性弛緩性麻痺	3 例	急性脳炎	11 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	13 例	後天性免疫不全症候群	10 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	18 例	水痘(入院例)	1 例	梅毒	200 例
	播種性クリプトコックス症	3 例	破傷風	4 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例
	百日咳	21 例	麻しん	2 例		

## □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 111%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と伝染性紅斑であった。

インフルエンザの報告数は 8,193 人(1.7)で前週比 132%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\* (0.06)の約 30.0 倍であった。鹿児島県(27.3)、長崎県(9.1)、宮崎県(8.8)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 8 割を占めた。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 45,108 人(9.1)で前週比 126%と増加した。沖縄県(41.7)、鹿児島県(17.2)、宮崎県(16.0)からの報告が多く、年齢群別では 20 歳未満が全体の約 4 割を占めた。

\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均

## 月報告対象疾患の発生動向 <2023年6月>

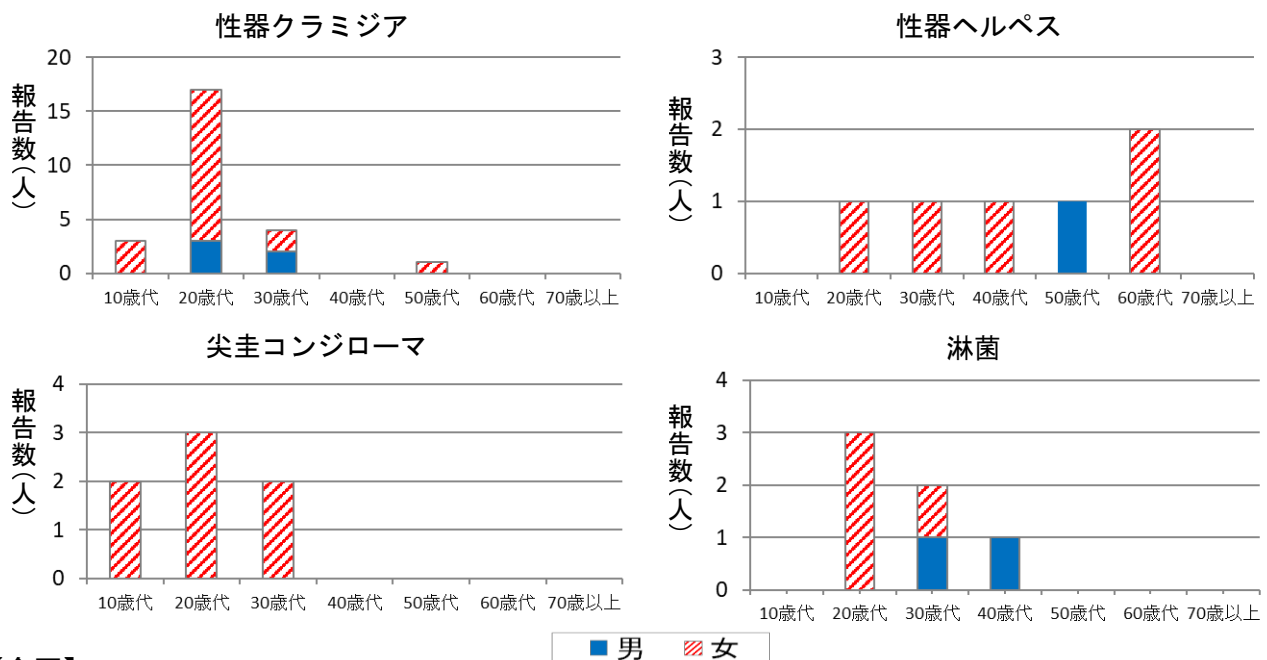
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は44人(3.4)で、前月比88%と減少した。また、昨年6月(2.2)の約1.5倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数25人(1.9)で、前月の約0.8倍、昨年6月の約1.7倍であった。  
20歳代が全体の約7割を占めた。(男性5人・女性20人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数6人(0.46)で、前月と同率、昨年6月の約1.5倍であった。  
(男性1人・女性5人)
- 尖圭コンジローマ：報告数7人(0.54)で、前月の約3.5倍、昨年6月の約7.0倍であった。  
(女性7人)
- 淋菌感染症：報告数6人(0.46)で、前月の0.5倍、昨年6月の約0.7倍であった。  
(男性2人・女性4人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は5,091人(5.2)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,871人(2.9)で前月比105%、性器ヘルペスウイルス感染症835人(0.85)で前月比105%、尖圭コンジローマ610人(0.62)で前月比100%、淋菌感染症775人(0.79)で前月比93%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は17人(2.4)で、前月比85%と減少した。また、昨年6月(2.9)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月及び昨年6月の約0.9倍であった。70歳以上が全体の約半数を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,319人(2.8)で、前月比99%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,213人(2.6)で前月比100%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症95人(0.20)で前月比83%、薬剤耐性緑膿菌感染症11人(0.02)で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2023年 第28週(07月10日～07月16日)

疾病名		第27週	第28週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	512	536	242	110	9	117	4	16	5	3	30
	定点当り	8.83	9.24	15.13	11.00	1.29	23.40	1.00	2.67	2.50	0.50	15.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	928	1206	313	163	181	138	60	110	75	117	49
	定点当り	16.00	20.79	19.56	16.30	25.86	27.60	15.00	18.33	37.50	19.50	24.50
RSウイルス感染症	報告数	146	124	47	19	15	12	6	11		9	5
	定点当り	4.06	3.44	4.70	3.17	3.75	4.00	2.00	2.75	0.00	2.25	5.00
咽頭結膜熱	報告数	17	10	1	1			1	2		5	
	定点当り	0.47	0.28	0.10	0.17	0.00	0.00	0.33	0.50	0.00	1.25	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	37	40	19	11		1	1	2		5	1
	定点当り	1.03	1.11	1.90	1.83	0.00	0.33	0.33	0.50	0.00	1.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	196	164	31	42	5	15	36	5	5	22	3
	定点当り	5.44	4.56	3.10	7.00	1.25	5.00	12.00	1.25	5.00	5.50	3.00
水痘	報告数	2	4	3			1					
	定点当り	0.06	0.11	0.30	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	79	80	9	2	29	2		7		31	
	定点当り	2.19	2.22	0.90	0.33	7.25	0.67	0.00	1.75	0.00	7.75	0.00
伝染性紅斑	報告数		2		1				1			
	定点当り	0.00	0.06	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	13	22	6	6	1	2	3	1		1	2
	定点当り	0.36	0.61	0.60	1.00	0.25	0.67	1.00	0.25	0.00	0.25	2.00
ヘルパンギーナ	報告数	207	168	24	14	29	16	44	11	2	27	1
	定点当り	5.75	4.67	2.40	2.33	7.25	5.33	14.67	2.75	2.00	6.75	1.00
流行性耳下腺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	1	4	2		2						
	定点当り	0.17	0.67	0.67	0.00	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1								1	
	定点当り	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		1.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～28週保健所受理分)

2類感染症	結核	64例(2)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7例	腸チフス	1例
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	10例	つつが虫病	10例
	レジオネラ症	2例	日本紅斑熱	4例
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	5例(1)
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	8例	水痘(入院例)	2例
	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例
			カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例
			クロイツフェルト・ヤコブ病	3例(1)
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例
			梅毒	105例(1)
			百日咳	4例

( )内は今週届出分、再掲